

日本緑化工学会は2017年3月に現地見学会およびシンポジウム 「熊本地震災害から学ぶ“緑”の役割とその再生」を開催



主 催：日本緑化工学会 <http://www.jsrt.jp/> (生態・環境緑化研究部会 企画)

後 援：熊本県 環境省 国土交通省九州地方整備局 熊本大学 応用生態工学会

平成 28 年熊本地震および平成 24 年豪雨による被害を受けた地域を中心に、緑化研究者および官公庁関係者、施工業者、設計コンサルタント等が一同に集まり、復旧から復興、発展につなげるため、将来の地域景観に大きく影響することが考えられる今後の事業の進め方等について、短期的／長期的な視点に分けつつ、議論した。

現地見学会：平成 29 年 3 月 18 日 (土)



おもな見学地と内容

- 阿蘇外輪山 立野地区の大規模崩壊地およびその対策工事
- 北向山原始林 照葉樹の原生林の崩壊地
- 内牧温泉周辺の地盤変動
- カルデラ内草原の表層崩壊および草原生態系の保全・管理
- 平成 24 年豪雨／平成 28 年熊本地震による被害箇所とそれぞれの植生再生状況

シンポジウム：平成 29 年 3 月 19 日 (日) 水前寺共済会館グレースシア

【趣旨説明】 内田泰三 九州産業大学

講演 1：熊本地震発生直後の現場の状況と、その後の取り組みの紹介

黒川 潮 森林総合研究所九州支所

講演 2：九州における国立公園・自然公園の保全・管理について

北橋義明 環境省九州地方環境事務所

講演 3：阿蘇草原再生に向けて考える災害跡地と法面の緑化植物の取り扱いについて

西脇亜也 宮崎大学農学部

話題提供 1：生物多様性に配慮した植物材料供給の最前線および

「自然公園における法面緑化指針」の概説

入山義久 雪印種苗株式会社／自然公園における法面緑化指針策定検討会委員

話題提供 2：災害復旧における斜面緑化の計画検討のあり方

吉田 寛 東興ジオテック株式会社／斜面緑化研究部会

話題提供 3：地域性植物材料を活用する「熊本モデル」の構想と企画内容

中村華子 緑化工ラボ／生態・環境緑化研究部会

【討論／質疑応答】 司会 中島敦司 和歌山大学／生態・環境緑化研究部会長

「阿蘇草原再生全体構想」，阿蘇草原再生協議会，2007年より

阿蘇の野草地：
利用や管理方法の違いにより、場所ごとに異なる景観や生態系が成立してきた

採草地(夏に採草)
(光環境がよい)高茎草原

茅野(冬場に刈り取り)
野焼きだけを行っている

放牧地
シバなど草丈が低い
草原が保たれる

秋の草原－北外輪の採草風景, p4

草原の植物の活用により **草原の資材活用／復旧需要**

の両方を兼ねた活動として展開できないか

熊本モデル 構想

なみの高原やすらぎ交流館を拠点に活動を開始！



小規模崩壊地草原再生/復元プロジェクト

- ❧ 中江牧野組合管理草原
- ❧ 崩壊地の侵食拡大防止
- ❧ 草原内の種子利用
- ❧ 採取種子の保管・性状確認
- ❧ 使用対象地の拡大・流通
[熊本県内での使用を拡大推奨]

現地採取種子などを利用した
地域性種苗利用工等への
活用も視野に入れた活動を検討